コミュニティ・スクールだより

令和６年３月号　東温市立上林小学校

3月6日　全校遠足～地域の偉人「菅能宇吉さん」のプレゼンをしました！～

上林小学校のふるさと学習では、地域の偉人についても学びを進めてきました。令和4年度、法蓮寺住職の前園実知雄先生からの御紹介で知ることとなった「伝説の石工菅能宇吉さん」について、もっとたくさんの人に知ってもらいたいとの思いを強くした子供たちは、松山城でプレゼンテーションをしました。5・6年生は、地域の方から提供していただいた資料をもとに宇吉さんの紹介文を考えました。3・4年生は、宇吉さんの功績を知ってもらうためのクイズづくりをしました。1・2年生は、観光客を呼び込むために宇吉さんの旗や垂れ幕を作りました。松山城のロープウェイ乗り場から少し上がったところに、宇吉さんが修復した石垣があります。上林っ子たちは、宇吉さんの名が刻まれた石垣の前で、観光客の方に宇吉さんの功績を伝えました。50 人、60 人…いえそれ以上に多くの観光客の方が足を止め、感嘆の声を上げながら、子供たちの声に耳を傾けてくださいました。子供たちは、目をきらきらと輝かせながら、誇り持って、地域のすばらしさを伝えていました。子供たちの学びのために尽力してくださった地域の皆さん、ありがとうございました。

「あそこに、菅能宇吉さんの名前が刻まれた石垣があります！」観光客の方に熱心に説明をする子供たちです。

～子供たちが作成したプレゼンテーション～

(1)みなさんは、「菅能宇吉」という人を知っていますか。

菅能宇吉さんは、愛媛県東温市上林生まれの「伝説の石工」と呼ばれた人です。では、宇吉さんはどうして「伝説の石工」と呼ばれたのでしょうか。それは宇吉さんがたくさんの功績を残したからです。

(2)宇吉さんは、終戦１日前の大阪大空襲で破壊された大阪城の石垣を修復したことで功績を得ました。もともとは、大林組という会社が修復する予定でしたが、石垣を修復する技術がなかったため、宇吉さんに白羽の矢が立ちました。

(3)修復が終わると、大阪市民はとても喜び、大阪市長から感謝状がおくられました。宇吉さんは他にもたくさんの城の石垣を修復しました。宇吉さんが積み上げた石垣は絶対に崩れなかったそうです。

ここでクイズです。宇吉さんたちが修復した主な城の数はいくつでしょう？

正解は７城です。宇吉さんたちは、大阪城、松山城、高知城、大洲城、高松城、丸亀城、宇和島城の石垣を修復しました。なんと 80 歳の時に松山城の石垣を積み上げたそうです。

(4)修復が終わると、大阪市民はとても喜び、大阪市長から感謝状がおくられました。宇吉さんは他にもたくさんの城の石垣を修復しました。宇吉さんが積み上げた石垣は絶対に崩れなかったそうです。さらに、宇吉さんが積み上げる石垣のこう配には、ほかの人には再現できないような美しい反りがあります。こう配とは傾きの程度や傾斜という意味を表します。

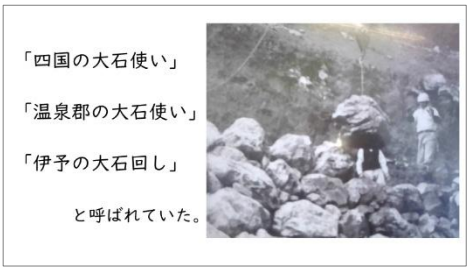
(5)考古学者の前園実知雄先生が住職をしている上林の法蓮寺には、今でも宇吉さんと共に作業をした森亀久（もりかめひさ）さんが積み上げた石垣が残っています。この松山城では、あちらに、宇吉さんの名前が刻まれています。みなさんも石垣の積み方や傾斜に注目してみてください。

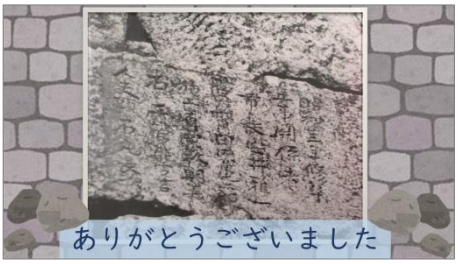
ここでクイズです。石垣の積み方にはいくつか種類がありますが、宇吉さんはどんな積み方で石垣を修復していたでしょう。

①切り込みはぎ②打ち込みはぎ③野面積み

正解は、③野面積みです。野面積みは自然の石を使って修復していたので難しいと言われていました。

(6)石工の仕事を紹介します。石工とは、石材を切り出して加工したり、それで何かを組み立てたりする職業です。昔は、石垣がたくさんあったので、いろいろなところで石工は必要とされていました。当時は今のように軍手やヘルメットがなかったので、たくさんの傷をつくりながら命がけで作業をしていたそうです。





宇吉さんは、セリ矢・マメ矢・金テコ・ゲンノなどの道具を持ち歩き、熟練の技とともに様々な道具を使いこなしていました。セリ矢とマメ矢は、石を割る時に使う道具で、石に穴を空けて、そこにマメ矢を差し込み、セリ矢でたたいて石を割ります。

⑺金テコは、岩石などの移動や石を設置する作業に使用しました。実際に使われていた金テコの重さを量ってみると約3.9キログラム、長さは約130センチもありました。持ってみると、想像以上に重いので上手く扱うのは難しいだろうなと感じました。

⑻次にゲンノです。ゲンノは石材をけずったり穴をあけたりする道具です。ゲンノも重さを量ってみると約400グラムで、長さは40.5センチでした。これも、普段使っている金槌と比べると重たかったです。

⑼当時、宇吉さん以外には石垣を修復できる人がほとんどおらず、たくさんの人に『四国の大石使い』や『温泉郡の大石使い』、『伊予の大石回し』と呼ばれていたそうです。

ここで、クイズです。宇吉さんが積んだ石は、大きな石がたくさんあったそうです。その石の重さは、上林小学校の児童何人分でしょう？児童一人30キログラムと考えます。

①5人　②15人　③25人

　正解は③25人です。750キログラムもありました。石工さんが石をチェーンで巻き、ワイヤで引っ張って、重い石を積み上げていたそうです。

⑽宇吉さんは仕事にとても厳しかったそうです。息子の朋近さんは一緒に働きながら、「他人の方がどれだけ楽なのかと思うことがたくさんあった」と言っていますが、宇吉さんは石垣を積む「穴太衆」のリーダーとして、指導力・包容力があり、命がけの仕事をやり遂げた人格者でした。

⑾そんな宇吉さんの仕事ぶりが伝わる言葉が残っています。それは、『石にも目も鼻も口もあるんだぞ』です。宇吉さんは思い通り石を割れるのに、朋近さんがやると割れてもくれない、そんなときに宇吉さんが言った言葉です。石には、裏・表・面・上・下などの呼び方がありますが、宇吉さんは石を見るなり、どのように積んだらよいか一目で分かるセンスがあったそうです。

⑿みなさんも興味を持ったら、上林の誇りである菅能宇吉さんについてぜひ調べてみてください。聞いていただきありがとうございました。

遠足の後半は、道後商店街を散策しました。なかよし班に分かれて、足湯に浸かったり、買い物を楽しんだりしました。高学年の子供たちが、下級生の思いを聞きながらリーダーシップを発揮して活動しました。一人一人を大切にする姿は、上林っ子の伝統として受け継がれています。

～子供たちの感想より～

○　呼び掛けでたくさんの人が来てくれたのでうれしかったです。宇吉さんの名前が書いてある石を見付けることができて良かったです。１年　ひなた

○　みかんの木では、ソフトクリームを食べるとキンキンでおいしかったです。ロープウェイでは、先生と一緒に乗ることができて楽しかったです。１年　とわ

○　たくさんのお客さんが松山城に来ていてびっくりしました。道後温泉街の足湯が気持ちよかったです。１年　そうた

○　呼び掛けで、宇吉さんのことをみんなが見てくれて良かったです。リフトからの景色がきれいですごかったです。１年　かむい

○　大好きな松山城に行ったり、道後商店街で買い物をしたりして、楽しかったです。次の遠足でくるりんも乗ってみたいです。１年　かなと

○　松山城では、宇吉さんの旗を見せました。リフトでは、ぐらぐらして落ちそうになったけど、ゆっくり行ってきれいな眺めでした。２年　さやか

○　私は遠足をすごく楽しみにしていました。宇吉さんについて話すのが楽しかったです。たくさんの人が来てくれました。２年　さつき

○　松山城で観光客の人と楽しくお話をしたり、宇吉さんのことを教えることができました。道後では、からくり時計を見ました。３年　こたろう

○　私は、宇吉さんが直したお城の数をクイズにしました。上林の石垣名人を知ってもらってうれしかったです。３年　りんか

○　私はお客さんに石の重さのことをクイズにしました。上林のすごい人を知ってもらってうれしかったです。３年　なのか

○　宇吉さんのしたすごいことを知らせるために、よく分かるようにゆっくり話すようにしました。道後では、家族のみんなにお土産を買いました。４年　さく

○　道後でみかん味のソフトクリームを買いました。ちょっとすっぱかったけど、おいしかったです。買ったキーホルダーは筆箱に付けています。４年　ゆづき

○　松山城では、上林の誇れる人を知ってもらえてうれしかったです。６年生と最後の遠足で、たくさん思い出ができました。４年　るみか

○　道後商店街では、ぼくが欲しかった目の飛び出すキーホルダーを買うことができてうれしかったです。５年　かい

○　松山城では、想像以上に観光客が立ち止まって聞いてくれてうれしかったです。道後では、去年の反省を生かしていい買い物ができました。５年　ひより

○　宇吉さんの話を聞いてくれた人に、手作りのふるさとキーホルダーを渡すことができました。すぐにかばんに付けてくれる人がいて、やってよかったなと思いました。５年　みおり

○　松山城で宇吉さんの話をするのを頑張りました。楽しかったし、またこのような機会があればしてみたいです。５年　いつき
○　宇吉さんのプレゼンでは、たくさんの人が立ち寄ってくださり、準備をしてきて良かったなと思いました。班のみんなと協力することが多くあり、班のリーダーとしてみんなをまとめることができたし、最後の遠足でみんなと楽しく過ごすことができてうれしかったです。６年　ゆう
○　宇吉さんのプレゼンでは、聞いてくれる人の顔を見たり、声掛けをしたりして頑張りました。道後商店街では、班のみんなと考えながら買い物ができました。６年　ゆめ
○　初めて道後温泉本館に行けてうれしかったです。もう一つうれしかったのは、たくさんの人と話したことです。いつもより楽しく感じ、これからも人とたくさん話していきたいと思いました。６年　しおり
○　みんなと楽しく買い物をすることができてうれしかったです。今年は家族の分も買うことができて良かったと思いました。６年　はるき

３月１０日　おはなし広場
～読み聞かせボランティアの大西三笛さん　ありがとうございました～

読み聞かせボランティアの大西さんが、年に一度のおはなし広場を開催してくださいました。楽しい遊び歌から始まった絵本の読み聞かせに、子供たちは引き込まれていきます。そして、もうすぐ卒業する6年生には、夢に向かって飛び立つよう、一人一人に言葉と手作りの仕掛けカードをプレゼントしてくださいました。最後には、折り紙で作ったタンポポの綿毛をみんなで飛ばして、6年生にエールを送りました。温かい気持ちを子供たちにくださり、それを受け取った上林っ子が今度は誰かに温かい気持ちを送る。こうやって子供たちの心が育まれていきます。幸せな時間をありがとうございました。

拝志神社　松浦収詞さんから卒業生に記念品をいただきました

拝志神社宮司の松浦さんから、毎年、卒業生に記念品を贈っていただいています。今年度も卒業のお祝いとして文房具をいただきました。ありがとうございました。

3月13日　上林ささゆり緑の少年隊総会

　総会では、今年度の活動を振り返るとともに、花鉢に卒業生へのメッセージを書いて応援しました。また、緑の少年隊活動を通して環境のために活動したポイントを集めるエコキッズポイントプログラムでは、東温市から花の苗と土をいただき、全校で植えました。これからも、地域の自然を守り育てる活動を大切にしていきます。

上林スポーツ愛好会の活動の御紹介

　今年度の上林スポーツ愛好会では、「アイススケート」と「松山城ウォーク」を計画されました。子供たち、そして参加された保護者の皆さんの楽しそうな様子を御紹介いたします。執筆してくださったのは、会長の平岡さんです。また、保護者の方から写真を提供していただきました。御協力をありがとうございました。

アイススケート　２月２３日

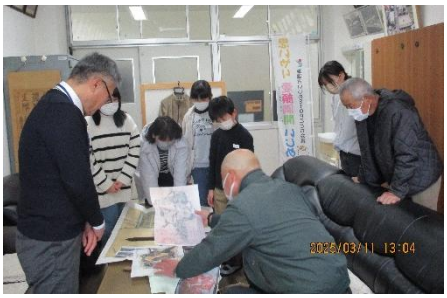
　今年度は、アイススケートを実施しました。イヨテツスポーツセンターは、５０年以上にわたって親しまれましたが、２０２７年１月に閉鎖が決まっているそうです。私たち親世代も小学生の時にスポーツ愛好会で来たことがありました。はじめは怖がって壁から手を離せずにいた子どもたちですが、だんだん恐怖心もなくなり、最後は大きなリンクでスイスイ滑ることができました。親も子も思い出に残る楽しい１日になりました。

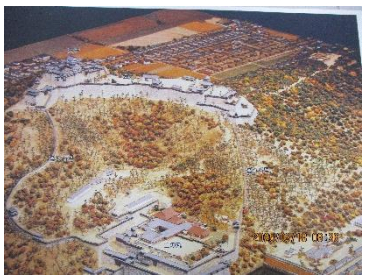
松山城ウォーク　３月１６日

　コロナ禍を経て、松山城ウォークを計画していましたが、あいにくの雨のため、予定を変更して道後商店街散策をしました。３月の遠足で道後へ向かいましたが、もっとやりたい！のリクエストで実施しました。なかなか日頃乗ることのない郊外、市内電車の両方に乗る事ができ、親子で貴重な体験ができました。校長先生、教頭先生にも御参加いただき、御協力いただいた皆様ありがとうございました。来年度も子供たちのために活動できる場になればいいと思っております。

石工さんの古道具と松山城の石垣関係の資料を寄贈していただきました
～松山城にお勤めの矢野敬幸さん来校～

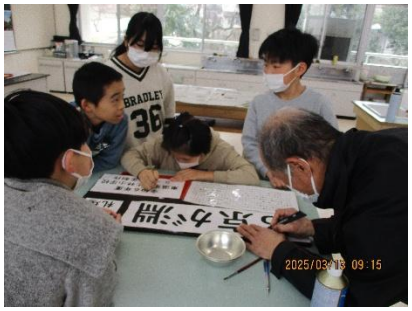
　３月１１日付の愛媛新聞で、菅能宇吉さんのプレゼンをしている子供たちについて掲載されました。その翌日、松山城にお勤めの矢野敬幸さんからお電話をいただき、これまで集めてきた石工の古道具などを上林小学校に寄贈したいとのお申し出がありました。松山城を修復した際の報告書や石の金槌、石工が使った古道具など、貴重な資料について子供たちに説明してくださいました。





「お京が渕」の看板づくり＆ふるさと看板の設置

ふるさと学習を通して、地域の名所や昔話に出てくる場所について学びを広げたり深めたりしてきた子供たちです。今年度は、森数正さんに御協力いただき、看板づくりに取り組みました。1枚目の制作に取り掛かったのは、「重信のむかし話」にある「お京が渕」です。5・6年生が看板のデザインや説明文を考え、板に色を塗っていきました。数正さんに作っていただいた残り4枚の板は、次年度の学習へと引き継いでいく予定です。卒業を目前に控えた6年生が、ふるさと学習においても5年生にバトンを託していきます。



3月19日、ふるさと看板ができ上がりました！いよいよ念願の設置です。森数正さんをお招きし、校務員の林さんと一緒に柱を立てました。強風でも飛ばないようにみんなで協力しながら、ネジでしっかりと固定しました。これからも、ふるさとを愛し、誇りを持って生きる子供たちを育てていきます。

地域の皆さん、保護者の皆さん、様々な教育活動において、御理解と御協力をありがとうございました。「子供は地域の宝じゃけん！」温かいお言葉に感謝いたします。